

【講評文】 8月9日（火） 2校目

「ビート・ハイ」 郡上高校

「ビート・ハイ」という題名の示すように、リズムの良さとスピード感によって次にどんなことが起こるのかドキドキしながら観ることができる楽しい劇でした。入学から卒業までが60分間に凝縮され、友人達や演劇との出会いが目まぐるしく展開される内容でした。次々と変わる場転もとにかくスピーディーで、それが良い意味で「無理やり感」をもたせたコミカルな世界観として表現されていました。

キャストは、全体的にはテンポもよかったですのですが、台本の特性上もっと大袈裟な動きを取り入れたほうが、高校生らしい「わちゃわちゃ」とした様子が出て、楽しそうな雰囲気より強く表現できたのではないかという意見が出ました。しかし、キャスト一人一人があ個性豊かな役を見事に演じきっており、明るく楽しい「ビート・ハイ」の世界観をきちんと作りあげていたように感じられます。

また、誰でも分かるネタを笑いのポイントとして出していたことで、多くの観客を笑わせることに成功していました。しかし、逆に言えば分かりやすいネタでしか笑いが取れず、日常会話においてクスツと笑えるポイントが多くあったにも関わらず、リズムの緩急がうまくとれなかったことで話が通りすぎてしまい、本来笑える台詞が流されてしまっているようにも感じられました。笑いどころは間を少し取るなどの工夫をすれば、よりこの作品の面白さが表現できたのではないのでしょうか。スピード感が速い作品だからこそ間の取り方が大変難しく、適切な場所での緩急が求められることを感じます。

衣装では、講評での意見も賛否が分かれました。学校が舞台の話なので私服みたいな衣装をキャストが着ているのは世界観に合っていないのではないかという意見と、キャストの個性を上手く表現できているという面においては、キャスト達の良さを上手く引き立たせているという意見があり、判断にも悩まれたことだろうと感じます。

劇全体を通して、登場人物たちの楽しそうな雰囲気が観ていてしっかりと伝わり、だからこそ楽しい高校生活も一瞬で過ぎ去ってってしまうという、時間と感覚の不適合を見事に表現していた作品でした。また、次の一年生に高校生活は楽しいことがたくさんあるというメッセージを送っているようにも捉えることができました。

郡上高校のみなさん、上演お疲れさまでした。

(文責 岐阜総合学園高校 3年ウエルチ 1年ケイ)